



愚者の自覚を——目次

- 1 学識のある人が賢い人? 1
 - 2 おろかなる者も 5
 - 3 汝自身を知れ 12
 - 4 宗教的愚者とは 15
- 

1 学識のある人が賢い人？

「ああ、またやっちゃった」

そう、悔やんだことはありませんか。

安売りをしていたので、必要もないのについて買ってしまったとか、言わないほうがいいのに、つい一言余計なことを言ってしまうとか、これ以上飲んだら二日酔いになるのがわかっていているのに飲んでしまうとか…。

こんなことはよくあることです。そして時々、そんな自分を「バカだなあ」なんて思ったりしませんか。でも、本心からそう思っているわけではありませんよね。

人はだれも、自分を愚か者だと思いたくはありません。もちろん、人前で「浅学非才の私ですが…」などと卑下したり謙遜したりすることはあっても、心の中では「愚かなところもあるけれど、しかし、それを補うほど

の賢さを持っている」と思っているのが普通ではないでしょうか。そう思わなければ、自尊心がガタガタとくずれていってしまいます。

「へーん、どうせおれはバカものさ」と開き直ってみせる人も時々見られますが、これは論外です。自分が賢いと思っていることを他者に認めてもらえない悔しさの反動にすぎません。と言っても、人間だれしも、少しでも自分をよく見てもらいたいという心は確かにありますね。

ところで、**煩惱**という言葉があります。「悪い心の働き」とか「心身を悩ますもの」を意味する仏教語ですが、一般でもよく使われています。この**煩惱**、一〇八もあると言われますが、大きくまとめると「むさぼり」「いかり」「おろかさ」の三つになります。

煩惱は、人間が持って生まれたものです。ちょっとやさつこのことでは捨てることなどできません。人間は、この**煩惱**に支配されて生きていることいっても過言ではないでしょう。胸に手を当てて、日々自分のしているこ

とを思い返してみれば、わが身を悩ませていることの原因も、この煩惱だということに気がつくでしょう。

冒頭に記した「必要もないのに…」などというのは「むさぼり」の心、欲望ですね。また



「言わないほうがいいのに…」は「いかり」そのもの、「二日酔いになるのがわかってるのに…」は「愚かさ」になりますね。

しかし、「またやっちゃった」とか「へーん、どうせおれはバカものさ」と言うような人は、しょうがないなと思いつつも、また可愛らしくも感じたりしますね。

それにひきかえ、頭がいいと評される人は、なんとなく高慢だとか、冷たそうな感じがするなんて言われたりします。これは偏見ですが、しかし、一面で鋭いところをつけています。それは、そういった人からおごりやうぬぼれを感じるからではないでしょうか。そしてまた、そういう人の前にいると、なんとなく劣等感を感じてしまうからではないでしょうか。

学識の量と人間性とはなんの関係もないのに、高学歴だとか、社会的地位が高いと聞くと、なんとなく賢い人だとのイメージを抱いてしまうものです。